



大いちょう

平成31年 1月30日
さいたま市立高砂小学校

高砂小学校だより 平成30年度 No. 10

048(829)2737

よく遊べ！よく学べ！

校長 並木昌和

まもなく節分、春です。暦の上では春ですが、2月は一段と寒さが厳しい時です。寒さが厳しい中でも陽光は心なしか輝いて感じられ、春の足音がすぐそこまで近づいてきているようです。

インフルエンザの流行も一向に下火になりません。引き続きお子さんの健康管理には十分に気を付けていただければと思います。

教育の目標の一つに社会性を育てることがあります。この社会性は、集団生活の中でこそ育つものであり、学校で学ぶ意義もそこにあります。特に子どもは、遊びをとおして、人とのかかわり方を学んでいきます。子どもにとって友達と遊ぶということは、豊かな人間性を形成する上で極めて大切なことです。そして、友達と遊んだことは、子ども時代の素晴らしい思い出に残ります。思い出してみてください。友達と遊んだ中で、楽しかったことも嫌な経験も、ルールを守らなければ遊びですら成り立たない事、ずるい事をして仲間に入れてもらえなかったことも、仲間を大切にしなければならないこと、小さい子には加減をしてあげることなども、みな幼い頃の遊びの中から自然と身に付いてきたことのように思えます。旧友と会うと今でも学習の事などは話題にもならず、遊んだことが話題になり、場が盛り上がります。きっと遊んでいるときは、子どもの心が輝いているときだからなのでしょう。

繰り返しますが、社会性は、集団生活の中で身に付き、とりわけ子どもにとって友達と遊ぶことが大切なことです。近年の若者を評して、「挨拶ができない。お礼も言えない。してもらって当たり前！自分の思い通りにならないのは、他人のせい。他人が困っていても手も貸さない。（自分に関係ないというそぶり）会話が成立しない。（メールなら伝えられる）この若者たちと一緒にチームを組んで仕事をすると思うと気が重くなる。」と言った友がいます。「おはようございます。ありがとうございます。行ってきます。お世話になります。お先に失礼します。等々」といった相手意識をもった言葉は集団生活を円滑にします。そういった言葉を発しない人がいるとたちまち集団の中の人間関係がぎくしゃくしてきます。不快な感情をもつメンバーも出てくることでしょう。集団の凝集力が低くなり、チームとして一つの目標に向かっても成果は期待できなくなります。

人は独りでは生きていくことはできません。子ども達はやがて、学校という狭い社会から離れ、大きな社会の中で生活をしなければなりません。私達には、今の子ども達に、豊かな社会性や人とのかかわり方を身に付けさせていかなければならないという使命があります。遊びの中だけで身に付かないものは他の教育活動をとおして身に付けさせていかなければなりません。

『よく遊べ！よく学べ！』です。

高砂小では、日々の授業の中で子ども同士の「かかわりあい」を大切にしています。

明後日（2月1日）は本校の第47回公開研究協議会です。授業の中での人と人との「かかわりあい」から子ども達がどのような学びをしていくのか楽しみます。